

小学校学習指導要領解説Q&A

特別の教科 道徳



教
学
一
如
女

教えることは 学ぶことである

学び続ける教職員に



鹿児島県総合教育センター

学習指導要領解説Q & Aについて

平成29年3月に公示された学習指導要領について、「教科の『見方・考え方』を働かせる授業って?」「知識の理解の質を高めるとは?」といった先生方の疑問や知りたいことなどを、教科等別にQ & A形式でまとめました。

このQ & Aは、改訂された学習指導要領がこれまでとどんなところが変わったのかを中心にまとめています。



1 ダイジェスト

見開きで改訂のポイントをまとめてあるので、教科等の授業を行う上で大事なことは何かがすぐに分かります。

2 Q & A

コラム欄やワンポイントアドバイス、図、表などを取り入れ、分かりやすく読みやすい内容で解説しています。

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと蒸してゆでるもの、ゆでることによってかさが減るものは、多くの量を食べることで調理の特性を理解できるようにするためです。

「教科等の目標や内容」、「主体的・対話的で深い学びの授業改善」等について、Q & A形式で分かりやすく解説しています。

ここには、「答え (Answer)」に係る補足説明や参考資料などが掲載されているので、「答え」の理由や根拠などが分かります。

家庭科 (9学級)

Q5 内容Bの食生活「(2) 調理の基礎」で、ゆでる材料として「じゃがいもなど」と指定されたのは、なぜですか。

A5 ゆでる材料として、水からゆでるものと蒸してゆでるもの、ゆでることによってかさが減るものは、多くの量を食べることで調理の特性を理解できるようにするためです。

【解説】
「じゃがいも」は、ゆでると食感が柔らかくなり、水からゆでるとかさが減ります。また、ゆでるとかさが減ることで、多くの量を食えるようになります。これは、調理の特性の一つです。また、ゆでるとかさが減ることで、調理の効率も上がります。したがって、ゆでる材料として「じゃがいもなど」と指定されたのは、調理の特性を理解できるようにするためです。

3 活用法

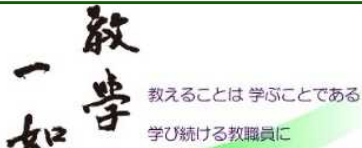
日頃の授業や校内研修、市町村教育委員会や教育事務所主催の研修会、教科等別の教育研究会等では是非活用してください。必要な部分だけでも印刷・ダウンロードできます。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 Q&A

目 次

Q 1	道徳教育の目標は、どのように改善されたのですか。-----	1
Q 2	学校の教育活動全体で行う道徳教育はどのように進めるとよいですか。	2
Q 3	道徳教育の全体計画の作成等に当たって、どのようなことに配慮すればよいですか。-----	3
Q 4	道徳教育の全体計画の別葉の作成に当たって、どのような工夫をすればよいですか。-----	5
Q 5	各教科等で行う道徳教育は、どのような手順や視点で進めればよいですか。-----	6
Q 6	「特別の教科 道徳」では、どのような道徳授業が求められているのですか。-----	8
Q 7	「特別の教科 道徳」の目標は、どのように設定されていますか。----	9
Q 8	「特別の教科 道徳」の内容は、どのように構成されていますか。----	11
Q 9	第1学年及び第2学年の内容項目はどのように改訂されたのですか。--	13
Q 10	第3学年及び第4学年の内容項目はどのように改訂されたのですか。--	14
Q 11	第5学年及び第6学年の内容項目はどのように改訂されたのですか。--	16
Q 12	「特別の教科 道徳」の年間指導計画の作成に当たってどのようなことに配慮すればよいですか。-----	18
Q 13	「考え、議論する道徳」に転換するためには、どのように授業を構想すればよいですか。-----	21
Q 14	「特別の教科 道徳」の評価は、どのようなことに留意して進めればよいのですか。-----	27
Q 15	「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて学校で取り組むことは何ですか。-----	28

小学校特別の教科道徳 改訂のポイント



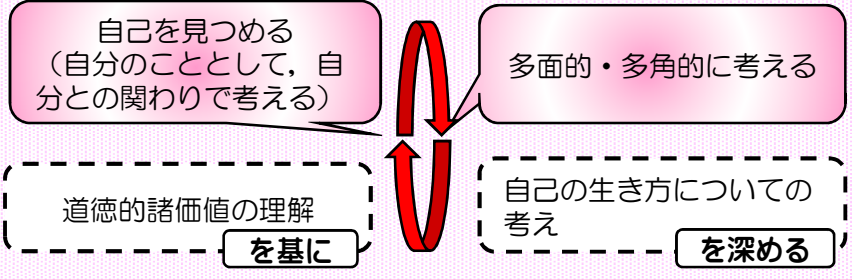
「道徳の時間」が「特別の教科である道徳」（以下「道徳科」）として新たに位置付けられました。そこで、道徳科の目標を踏まえ、「道徳科で育成する資質・能力」，「道徳科の指導」，教科化に伴って行われる「道徳科の評価」の三つにまとめました。



道徳科の目標

（前略）よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳性を養うために行う道徳科における学習



道徳教育・道徳科で育てることを目指す資質・能力

道徳性
道徳的な判断力、
心情、
実践意欲と態度

道徳科で育成する資質・能力

ポイント

道徳科で育成する資質・能力は、「よりよく生きるための基盤となる道徳性」です。道徳性を構成する諸様相は、道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度です。これは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目指すものと同一です。道徳科で道徳性を育成するためには、明確な指導の意図をもって授業に臨むことが大切です。

よりよく生きるための基盤となる道徳性

道徳的判断力	道徳的心情	道徳の実践意欲と態度
それぞれの場面において善悪を判断する能力	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情	道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性

指導の意図

道徳的価値	児童の実態	教材の活用
学習指導要領を基に、ねらいとする道徳的価値及び指導内容についての教師の考え方を明確にする。	道徳的価値に基づいて、これまでの各教科等で行った道徳教育を振り返り、児童にどのようなよさや課題があるのかを把握して、児童に考えさせるべきことを明確にする。	道徳的価値、児童の実態に基づいて、教材をどのように活用して、どのような学習を展開するのかを明確にする。

道徳科の指導

ポイント

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、
「議論する道徳」へ転換を図る必要があります。「考える道徳」、「議論する道徳」に向けた発問や手立て
など、指導方法を工夫することで、評価の視点を明確にすることにつながります。

考える道徳

自己を見つめる

道徳的価値を自分のこととして感じたり考えたりする授業になっているか。

⇒ 自分の考え方、感じ方の明確化

<発問例>

- 同じような気持ちになったことはありませんか。
- 自分だったらどのようなことを考えますか。

<授業づくりの観点>

- ・ 道徳科の特性を生かした学習指導過程
- ・ 指導の意図に基づいた発問
- ・ 児童の発言の傾聴
- ・ 教材や教具の活用
- ・ 発達段階にふさわしい指導方法
- ・ 配慮を要する児童への対応

議論する道徳

多面的・多角的に考える

多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりする授業になっているか。

⇒ 自分の考え方、感じ方の一層の明確化

<発問例>

- 自分がそうされてもよいですか。
- いつでも、どこでも、誰にでもそうしますか。
- それでみんなが幸せになれるか。

視点	道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているか	一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか
着目する児童の姿	・ 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。 ・ 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。 ・ 自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めている、道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。	・ 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な観点から捉えようとしている。 ・ 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。 ・ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。

道徳科の評価

道徳性を養うために行う道徳科における学習

自己を見つめる

(自分
分との

学習状況や

道徳性に係る成長の様子

⇒ 適切に把握し評価

道徳的

を基に

を深める

学習を通して

道徳教育・道徳科で
育てることを目指す
資質・能力

道徳性
⇒判断できない

実践意欲と態度

ポイント

道徳科で養うことをねらっている道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度）は、内面的資質であり、養われたか否かは、容易に判断できるものではありません。そこで、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し評価します。

- 1 道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定のまとまりの中で、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する。
- 2 他の児童との比較による比較ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として記述式で行う。
- 3 一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視する。
- 4 道徳科の評価は調査書には記載せず、入学者選抜の可否判定に活用することがないようにする。

道徳教育の目標は、どのように改善されたのですか。

★ ポイント

道徳性を養うことを目標とする道徳教育に対する基本的な考え方はこれまでと変わりはありませんが、これまで以上に学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実が求められています。

特にキーワードは「自立」です。

1 これまでの道徳教育の目標について

平成26年10月に中央教育審議会から出された答申「道徳に係る教育課程の改善等について」の中で、これまでの道徳教育の目標は、「文章の構造が複雑で理解しにくいことや『道徳性』、『道徳的実践力』などの用語の意味、相互の関係が分かりにくいことなどが指摘されており、その改善が求められる。」と課題が示されています。

2 道徳教育の目標の改善点

【道徳教育の目標】

(第1章総則第1の2の中段)

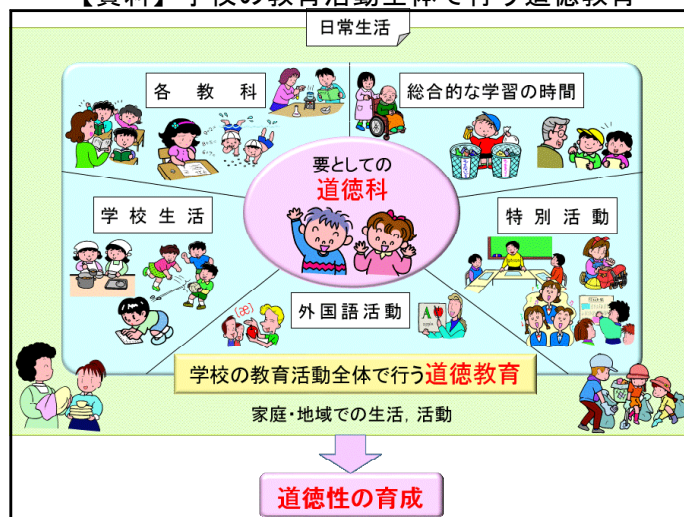
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

『一部改正小学校学習指導要領』（平成27年3月）では、現行の規定を整理した上で、最終的には、一人一人が生きる上で出会う様々な場面において、主体的に判断し、道徳的行為を選択し、実践することができるよう児童の道徳性を育成するものであることをより明確にするため、簡潔な表現に改められました。

この道徳教育の目標のキーワードは「自立」です。自ら道徳的問題を見だし、その解決策を主体的に考え、行動する資質・能力を育成することが大切です。これは、今日的な課題に取り組むためにも必要なことです。

道徳教育と道徳科の目標は、いずれも最終的には道徳性の育成です。学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の中核は道徳性の育成であり、その道徳性を養うための授業が道徳科です。このように、道徳教育の目標は、道徳科との関連性やそれぞれの役割を明確にし、分かりやすくするように改善されています。

【資料】学校の教育活動全体で行う道徳教育



学校の教育活動全体で行う道徳教育はどのように進めればよいですか。

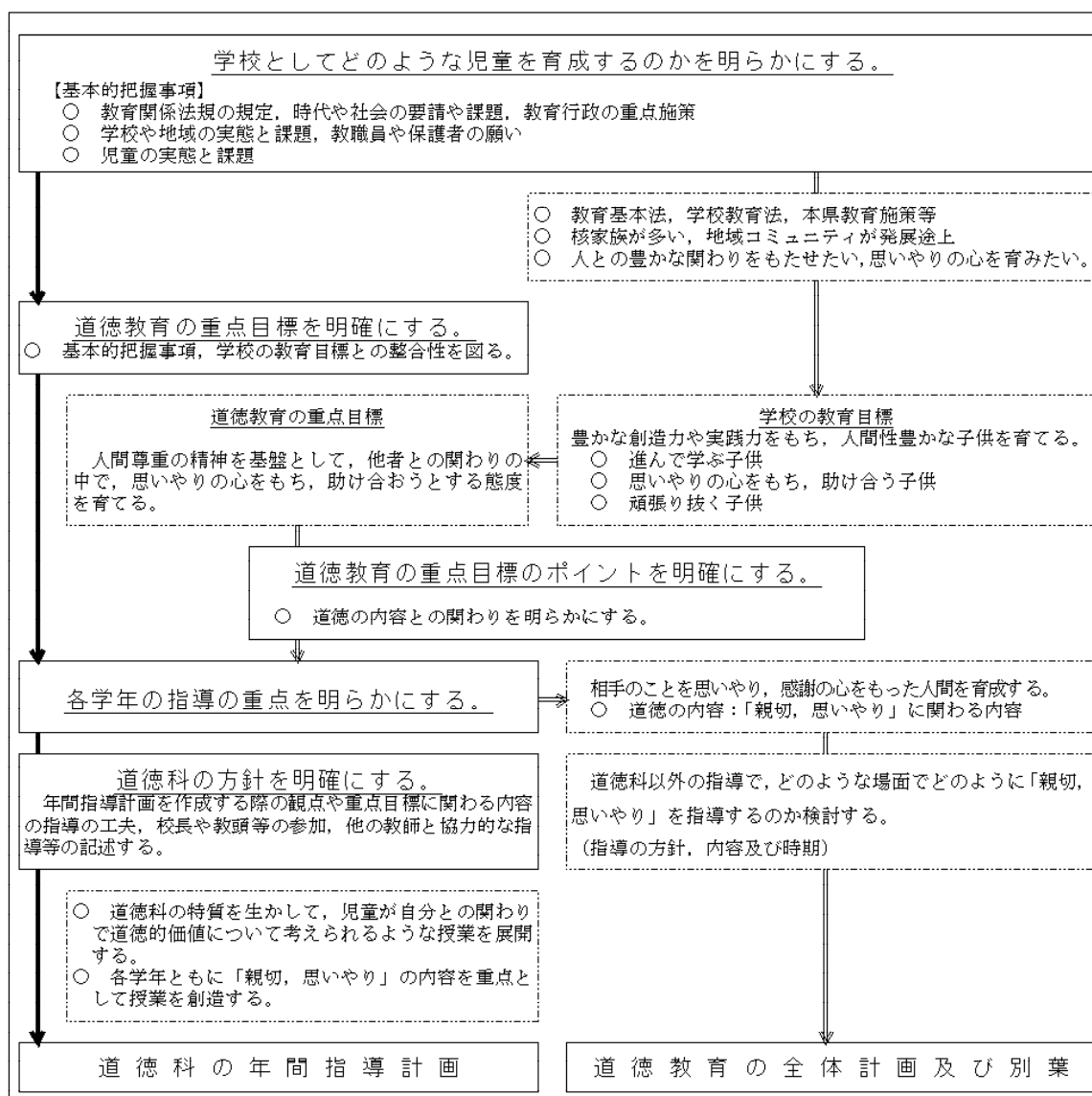
★ ポイント

学校の道徳教育の諸計画を整備し、具体的な重点目標や、いつ、どのように道徳教育を行うのかを明確にしておく必要があります。

道徳教育は、道徳科を要として、学校の教育活動全体を通して行うものです。各教科等においては、それぞれの特質に応じて適切に行わなければなりません。そして、道徳科は、各教科等で行う道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補充・深化・統合する役割を担っています。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育は、次のような視点と手順で進めます。

【資料】学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の進め方



道徳教育の全体計画の作成等に当たって、どのようなことに配慮すればよいですか。

★ ポイント

道徳教育の全体計画の意義や内容を踏まえ、具体的な指導に生きて働くものになるよう、体制を整え、全教師で創意工夫を生かして、作成する必要があります。

1 道徳教育の全体計画の意義

- ・ 人格の形成及び国家、社会の形成者として必要な資質の形成を図る場として、学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できます。
- ・ 学校における道徳教育の重点目標を明確にして推進することができます。
- ・ 道徳教育の要として道徳科の位置付けや役割が明確になります。
- ・ 全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できるようになります。
- ・ 家庭や地域社会との連携を深め、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を可能にします。

2 道徳教育の全体計画の内容

【資料 1】全体計画の内容

基 本 的 把 握 事 項

- 教育関係法規の規定，時代や社会の要請や課題，教育行政の重点施策
- 学校や地域社会の実態と課題，教職員や保護者の願い
- 児童の実態



具 体 的 計 画 事 項

- 学校の教育目標，道徳教育の重点目標，各学年の重点目標
- 道徳科の指導の方針
- 年間指導計画を作成する際の観点や重点目標に関わる内容の指導の工夫，校長や教頭等の参加，他の教師との協力的な指導
- 各教科，外国語活動，総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針，内容及び時期
 - * 重点的指導との関連や各教科等の指導計画を作成する際の道徳教育の観点を記述します。また，各教科等の方針に基づいて進める道徳性の育成に関わる指導の内容の時期を整理して示します。
- 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導の方針，内容及び時期
 - * 学校や地域の特色を生かした取組や集団宿泊活動，ボランティア活動，自然体験活動などの体験活動や実践活動における道徳性育成の方針を，その内容及び時期等を整理して示します。
- 学級，学校の人間関係，環境の整備や生活全般における指導の方針
 - * 日常的な学級経営を充実させるための具体的な計画等を記述します。
- 家庭，地域社会，他の学校や関係機関との連携の方法
 - * 協力体制づくりや道徳科の授業公開，広報活動，保護者や地域の人々の参加や協力の内容及び時期，具体的な計画等を記述します。
- 道徳教育の推進体制
 - * 道徳教育推進教師の位置付けも含めた全教師による推進体制
- その他
 - * 次年度の計画に生かすための評価の記入欄，研修計画や重点的指導に関する添付資料等を記述します。

3 道徳教育の全体計画作成上の留意点

【資料2】全体計画作成上の留意点

- 校長の方針の下に道徳教育推進教師を中心として全教師の協力・指導体制を整えます。

校長が指導力を発揮し、道徳教育推進教師を中心として全教師が全体計画の作成に主体的に参画できる体制を整える必要があります。

- 道徳教育や道徳科の特質を理解し、教師の意識の高揚を図ります。

全教師が、道徳教育及び道徳科の重要性や特質について理解が深められるよう、十分な研修を行い、教師自身の課題が明確になるようにします。

- 各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにします。

各学校においては、それぞれの実態に応じて、各学年段階ごとに示す内容項目の指導を通して、全体としてこれらの観点の指導が充実するよう工夫する必要があります。

- 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にします。

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育を、道徳科の内容との関連で捉え、道徳科が要としての役割が果たせるよう、計画を工夫します。

- 家庭や地域社会、近隣の幼稚園や保育所、中・高等学校、特別支援学校、関係諸機関、企業などとの連携に心掛けます。

全体計画を具体化するには、児童、保護者、地域の人々の協力が不可欠です。また、近隣の幼稚園や保育所、中・高等学校、特別支援学校などとの連携や交流を図り、共通の関心の下に指導を行うとともに、福祉施設、企業等との連携や交流を深めることも大切です。

- 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立します。

全体計画は、評価し、改善の必要があれば直ちにそれに着手できる体制を整えておくことが大切です。また、校内の研修体制を充実させ、全体計画の具体化や評価・改善に当たって必要となる事項についての理解を深める必要があります。

道徳教育の全体計画の別葉の作成に当たって、どのような工夫をすればよいですか。

★ ポイント

別葉を作成することの意義を踏まえ、具体的で実際に活用しやすいものになるよう形式も含めて各学校で工夫し作成することが大切です。

1 別葉の意義

学習指導要領では、各教科等における道徳教育についての内容及び時期を全体計画に示すこととされていますが、全体計画の中に、具体的な指導の内容及び時期を示すことは容易ではありません。そこで、別葉を作成することが求められています。

別葉の作成

- ・ 道徳科での指導との関連性が明確になります。
- ・ 各教科等における道徳教育の確実な実施につながります。
- ・ 全教師が道徳教育の進捗状況を把握できます。
- ・ 組織的な道徳教育を推進できます。

2 別葉の例

【資料 1】第 5 学年における全体計画の別葉の例

内容項目	各教科等	国 語	月	社 会	月	算 数
B－(1) 「親切、思いやり」		「わらぐつの中の神様」 登場人物の優しさや心遣いに触れ、思いやりの心を考える。	11月	「情報を生かすわたしたち」 相手の立場に立って個人情報 情報の大切さを考える。	1月	
B－(2) 「感謝」				「米づくりのさかんな地域」 食糧生産に尽くす人の苦 労に触れ、感謝の気持ちをもつ。	9月	
B－(3) 「礼儀」		「敬語」 敬語の使い方を通して礼儀の大切さを考える。	6月	「工業生産を支える」 工場の人々に対する質問の仕方、接し方などを考える。	11月	「割合とグラフ」 調査をするときの礼儀作法の大切さについて考える。
B－(4) 「友情、信頼」		「なまえつけてよ」 登場人物の関わり合いから友情について考える。	4月			「図形の面積」 友達と協力して求積の仕方を考える。

* 別葉作成上の留意点

- ・ 各教科で内容項目と実施時期を明記します。
- ・ 学校の重点内容項目から作成します。
- ・ 年間を通して、全職員で加除修正しながら、実効性のある別葉を作成します。

各教科等で行う道徳教育は、どのような手順や視点で進めればよいですか。

★ ポイント

各教科等の特質に応じて道徳性を養うことが必要です。そのために、各学校では各教科等で行う道徳教育の視点と内容を明確にする必要があります。

1 各教科等の指導を通じて道徳性を養うための観点

各教科等で行う道徳性を養う観点として、『小学校学習指導要領 解説編(抄)』（平成27年7月）において、次の3点が示されています。

【資料】各教科等の指導を通じて道徳性を養うための観点

教師の態度や行動による感化

- 教師の言葉や児童への接し方などは、児童の道徳性が育つよりよい学級の雰囲気や環境をつくるとともに、児童の人格の形成に直接、間接的に影響があります。
- 教師の授業に臨む姿勢や熱意は、授業中の様々な態度や行動となって現れます。
⇒ 児童の態度や行動にも反映し、学級の雰囲気をつくります。
- 例 真理を学ぶことへの姿勢は、教師の姿から学ぶことが多いです。
- * 教師は、授業内容の指導に力を入れると同時に、道徳科の目標や内容に示されている精神を自らが授業の中で実践するよう心掛ける必要があります。

道徳教育と各教科の目標、内容及び教材との関わり

- 各教科等の目標や内容には、児童の道徳性の育成に関係の深い事柄が含まれています。
- 各教科等において道徳教育を適切に行うためには、まず、それぞれの特質に応じて道徳教育に関わる側面を明確に把握する必要があります。
- それらに含まれる道徳的価値を意識しながら指導することで、道徳教育の効果も一層高めることができます。

学習活動や学習態度への配慮

- 各教科等では、それぞれの学習場面で活動への取組の姿勢が育まれ、学習態度や学習習慣が育てられます。
- 児童が伸び伸びとかつ真剣に学習に打ち込めるように留意し、学級の雰囲気や人間関係に思いやりがあり、自主的かつ協力的なものになるよう配慮します。
- 学習態度の習慣化が必要になります。
 - ・ 話合いの中で自分の考えをしっかりと発表し、友達の意見に耳を傾けること
 - ・ 各自で、あるいは協働して課題に最後まで取り組むこと⇒ 各教科等の学習効果を高めるとともに、望ましい道徳性を育てることにもなります。

2 各教科等で行う道徳教育の視点と内容

各教科等で道徳教育を進めるための視点と内容については、次の点を参考にしてください。

- (1) 各学校の具体的な道徳教育の重点目標を設定します。

(例) 相手のことを思いやり，しっかりとした規範意識をもった人間に育ってほしい。

〈参考にすべき事項〉

教育関係法規の規定，時代や社会の要請や課題，教育行政の重点施策，学校や地域の実態と課題，教職員や保護者の願い，子供の実態と課題など

- (2) 道徳教育の重点目標のポイントを明確にします。

(例) 「親切，思いやり」，「規則の尊重」

- (3) 道徳教育の重点目標のポイントに関わる道徳の内容（重点内容項目）を明確にします。

(例) B－(1)，C－(1)（高学年の例）

- (4) 重点内容項目に関わる道徳科以外の指導を明確にします。

(例) ボールゲームで，規範意識について指導をする（第2学年体育科）。

遠足で，公衆道徳について指導する（第4学年特別活動）。

- (5) 道徳科以外の指導の内容及び時期を明確にするために，別葉を作成します。

* 具体的な内容については，当センター「指導資料 道徳 第31号」（平成27年10月発行）をご覧ください。

「特別の教科 道徳」では、どのような道徳授業が求められているのですか。

★ ポイント

- 1 心の二面性に着目したこれまでの道徳の授業は引き続き大切にしながら、物事を多面的・多角的に学び、多様な感じ方や考え方に触れさせる道徳の授業が求められています。
- 2 「読む」道徳から「考え、議論する」道徳へ、授業の質的な転換が求められています。例えば、「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」や「問題解決的な学習」、「道徳的行為に関する体験的な学習」等、指導のねらいに応じた授業の工夫が求められています。

学習指導要領第3章「特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」には、配慮事項の一つに、道徳科の指導方法について、次のように記述してあります。

児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、**問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること**。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。

【これまでの道徳の授業の問題点は…】→ 道徳的な価値の理解に偏りがちな授業

読み物資料の登場人物の
心情理解のみに偏った授業

読み物資料のあらすじの
理解を中心とした授業

教師の発問を中心とした
徳目を教え込む授業

【これから求められる道徳の授業の姿は…】

児童が主体的に考え、議論する授業を目指します。

答えが一つではない問題を道徳的課題として捉え、児童が考え、議論する道徳科へ授業の質的な転換を図るために、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を通じて、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い議論する中で、道徳的価値について多面的・多角的に学び、その意義について考えさせ、実践へ結び付ける指導が求められているのです。

1 道徳的諸価値について理解する授業を目指します。

道徳的価値のよさや大切さを絶対的なものとして観念的に理解させる学習にならないように配慮します。

2 自己を見つめる授業を目指します。

児童が道徳的な価値を基に自己を見つめることができるような学習を通して、道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解できるようにします。

3 物事を多面的・多角的に考える授業を目指します。

児童自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにします。

4 自己の生き方についての考えを深める授業を目指します。

道徳的価値の理解を自分との関わりで深めたり、自分自身の体験やそれに伴う考え方や感じ方などを確かに想起したりすることができるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導します。

「特別の教科 道徳」の目標は、どのように設定されていますか。

★ ポイント

- 1 「特別の教科 道徳」の目標を「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」こととし、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同じです。
- 2 「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深める」ことを学習活動として具体化し、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」と改めました。
- 3 「道徳的実践力を育成する」ことを、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」と具体化しました。

(「第3章 特別の教科 道徳」の「第1 目標」)

第1章総則の第1の2に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

1 最終的な目標は、「道徳性の育成」です。

道徳性とは…人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的行為を主体的に実践するための内面的な資質・能力のことを指しています。

これまで「道徳の時間」の目標を道徳的実践力の育成としていましたが、育成すべき資質・能力を明確にするために道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度として示しました。

道徳性の様相	概 要	
道 徳 的 判 断 力	- それぞれの場面において、善悪を判断する能力 - 人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力 - 的確な道徳的判断力をもつことで、それぞれの場面において場面に応じた道徳的行為が可能	
道 徳 的 心 情	- 道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情 - 人間としてのよりよい生き方や善を志向する感情で、道徳的行為への動機として強く作用するもの	
道徳的実践意欲	道徳的心情や道徳的判断力によって価値があるとされた行動をとろうとする傾向性	道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意思の働き
道 徳 的 態 度		具体的な道徳的行為への身構え

道徳性は、一人一人の児童生徒が道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるなど道徳的価値を自覚し、自己の生き方についての考えを深めることを通して、日常生活あるいは今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質（図1）を意味します。

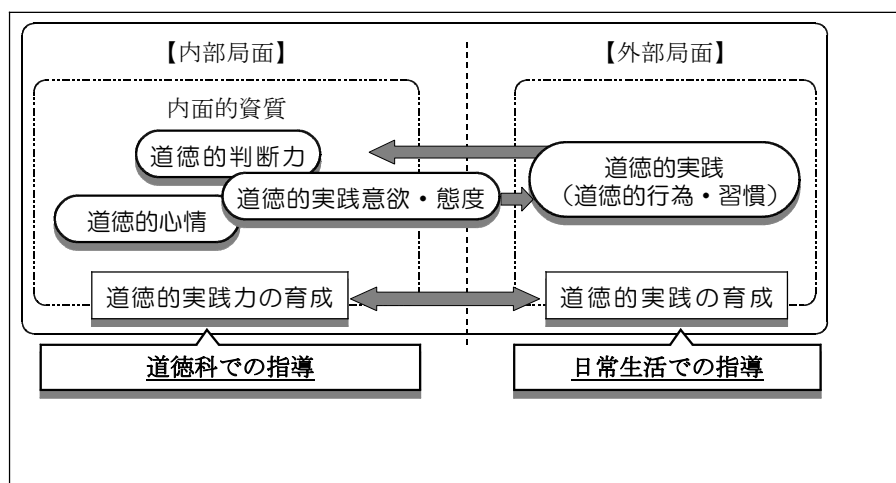


図1 道徳性における内面的資質

2 道徳的諸価値を理解するとは…

道徳的価値の意義や大切さを理解するとともに、道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めていくようにすることです。

- | | | |
|---|---|---|
| { | 価値理解…道徳的価値は大切であると理解すること
人間理解…道徳的価値は大切ではあるが、実現は難しいと理解すること
他者理解…道徳的価値の実現に向けては多様な感じ方・考え方があると理解すること | } |
|---|---|---|

3 自己を見つめるとは…

今までの自分の経験やそれに伴う考え方、感じ方を想起し、確認することを通して道徳的価値の関わる自分の現状を認識し、道徳的価値についての考えを深めること（自己理解）です。

4 物事を多面的・多角的に考えるとは…

児童が多様な考え方や感じ方に接することが大切であり、児童が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、道徳的価値を観念的に理解するのではなく、道徳的な価値を含んだ事象や自分自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどを理解することです。

5 自己の生き方についての考えを深めるとは…

児童は、道徳的価値の理解を基に自己を見つめるなどの道徳的価値の自覚を深める過程で、同時に自己の生き方についての考えを深めていますが、特にそのことを強く意識させることです。

【「道徳科」における指導上の留意点】

- ・ 教師が一方的に特定の価値観を押し付けたり、多くの道徳的価値を含む事象としての単なる生活経験の話合いなどの表面的な指導になったりすることがないようにしましょう。
- ・ 一人一人の教師が道徳の授業の特質についての理解を深め、それにふさわしい指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫につながるものにしましょう。

「特別の教科 道徳」の内容は、どのように構成されていますか。

★ ポイント

学習指導要領における内容は、4観点から改善・修正・付記があります。

- 1 4 視点の順序の改善
- 2 いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの改善
- 3 内容項目に新たに加わったり、分化・統合されたりし、分かりやすい表現に修正
- 4 内容項目に手掛かりとなるキーワードの付記

以下、内容について以下に示します。なお、中学校内容についても示していますので、小中連携等にご活用ください。

1 4 視点の順序の改善

改正前		改正後
1 主として自分自身に関すること	→	A 主として自分自身に関すること
2 主として他の人とのかかわりに関すること	→	B 主として人との関わりに関すること
3 主として自然や、崇高なものとのかかわりに関すること	↘	C 主として集団や社会との関わりに関すること
4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	↗	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

2 いじめの問題への対応の充実や発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの改善

「個性の伸長」、「相互理解、寛容」、「公正、公平、社会正義」、「国際理解、国際親善」、「よりよく生きる喜び」の内容項目を小学校に追加しています。

特に、「相互理解、寛容」については第3学年から（現行は第5学年から）、「公正、公平、社会正義」については第1学年から（現行は第5学年から）、「よりよく生きる喜び」については第5学年から（現行は中学校から）取り扱うことになっています。

3 内容項目に新たに加わったり、分化・統合されたりし、分かりやすい表現に修正

校種・学年	内容項目の総数	
	改正前	改正後
小学校第1学年及び第2学年	16	19
小学校第3学年及び第4学年	28	20
小学校第5学年及び第6学年	22	22
中学校	24	22

4 内容項目に手掛かりとなるキーワードの付記

「内容」を「項目」と称することを明記し、それぞれの内容項目に手掛かりとなる言葉をキーワードとして付記します。（例）「善悪の判断、自律、自由と責任」、「正直、誠実」、「節度、節制」、「個性の伸長」等

【道徳科の内容項目一覧】

※ ◎は新設された内容項目

小 学 校				中 学 校 (22)
	第1学年及び 第2学年(19)	第3学年及び 第4学年(20)	第5学年及び 第6学年(22)	
A 主として自分自身に関すること				
1 善悪の判断, 自律, 自由と責任	○	○	○	1 自主, 自律, 自由と責任
2 正直, 誠実	○	○	○	
3 節度, 節制	○	○	○	2 節度, 節制
4 個性の伸長	◎	○	○	3 向上心, 個性の伸長
5 希望と勇気, 努力と強い意志	○	○	○	4 希望と勇気, 克己と強い意志
6 真理の探究			○	5 真理の探究, 創造
B 主として人との関わりに関すること				
7 親切, 思いやり	○	○	○	6 思いやり, 感謝
8 感謝	○	○	○	
9 礼儀	○	○	○	7 礼儀
10 友情, 信頼	○	○	○	8 友情, 信頼
11 相互理解, 寛容		◎	○	9 相互理解, 寛容
C 主として集団や社会との関わりに関すること				
12 規則の尊重	○	○	○	10 遵法精神, 公德心
13 公正, 公平, 社会正義	◎	◎	○	11 公正, 公平, 社会正義
14 勤労, 公共の精神	○	○	○	12 社会参画, 公共の精神
15 家族愛, 家庭生活の充実	○	○	○	13 勤労
16 よりよい学校生活, 集団生活の充実	○	○	○	14 家族愛, 家庭生活の充実
17 伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	○	○	○	15 よりよい学校生活, 集団生活の充実
				16 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度
				17 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度
18 国際理解, 国際親善	◎	○	○	18 国際理解, 国際貢献
D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること				
19 生命の尊さ	○	○	○	19 生命の尊さ
20 自然愛護	○	○	○	20 自然愛護
21 感動, 畏敬の念	○	○	○	21 感動, 畏敬の念
22 よりよく生きる喜び			◎	22 よりよく生きる喜び

A : 主として自分自身に関すること

自己の在り方を自分自身との関わりで捉え, 望ましい自己の形成を図ることに関するもの

B : 主として人との関わりに関すること

自己を人との関わりにおいて捉え, 望ましい人間関係の構築を図ることに関するもの

C : 主として集団や社会との関わりに関すること

自己を様々な社会集団や郷土, 国家, 国際社会との関わりにおいて捉え, 国際社会と向き合うことが求められている我が国に生きる日本人としての自覚に立ち, 平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な道徳性を養うことに関するもの

D : 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

自己を生命や自然, 美しいもの, 気高いもの, 崇高なものとの関わりにおいて捉え, 人間としての自覚を深めることに関するもの

※ 視点は, 相互に深い関連をもっています。各学年段階においては, その関連を考慮しながら, 4視点に含まれる全ての内容項目について適切に指導をすることになっています。

第1学年及び第2学年の内容項目はどのように改訂されたのですか。

★ ポイント

学習指導要領における視点をAからDのまとまりで示し、第1学年及び第2学年では、「個性の伸長」「公正、公平、社会正義」「国際理解、国際親善」の内容項目が新設されています。

これまでの内容項目との比較を改訂の理由及び文言の新設・変更（旧→新）等以示します。

第1学年及び第2学年

視点	内容項目	改訂の理由	文言の変更・追加等
A	(4) 個性の伸長	自分のよさを生かし伸ばすことを重視するため	新設 「自分の特徴に気付くこと」
	(5) 希望と勇気、努力と強い意志	より主体性をもって努力できるようにするため	旧「自分がやらなければならない勉強や仕事」 ↓ 新「自分のやるべき勉強や仕事」
B	(6) 親切、思いやり	親切の対象を広げられるようにするため	旧「若い人や高齢者など身近にいる人」 ↓ 新「身近にいる人」
	(8) 感謝	感謝の対象を具体化するため	旧「日ごろ世話になっている人々」 ↓ 新「家族など日頃世話になっている人々」
C	(13) 公正、公平、社会正義	差別や偏見をもつことなく集団や社会との関わりをもてるようにするため	新設 「自分の好き嫌いとらわれないで接すること」
	(14) 勤労、公共の精神	より実感をもって公共の精神の素地を養うようにするため	旧「働くことのよさを感じて」 ↓ 新「働くことのよさを知り」
	(15) 家族愛、家庭生活の充実	家族の一員として自覚が芽生えるようにするため	旧「家族の役に立つ喜びを知る」 ↓ 新「家族の役に立つ」
	(17) 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	国との関わりを深められるようにするため	旧「郷土の文化や生活に親しみ」 ↓ 新「我が国や郷土の文化と生活に親しみ」
	(17) 国際理解、国際親善	これからのグローバル化に対応する素地を培うため	新設 「他国の人々や文化に親しむこと」
D	(19) 生命の尊さ	生きていることの証を実感することで生命の尊さを考えられるようにするため	旧「生きることを喜び」 ↓ 新「生きることのすばらしさを知り」

第3学年及び第4学年の内容項目はどのように改訂されたのですか。

★ ポイント

学習指導要領における視点をAからDのまとまりで示し、第3学年及び第4学年では、「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」の内容項目が新設されています。

これまでの改訂内容との比較を改訂の理由及び文言の新設・変更（旧→新）等で示します。

第3学年及び第4学年

視点	内容項目	改訂の理由	文言の変更・追加等
A	(1) 善悪の判断，自律，自由と責任	正しいと判断したことはしっかりやり抜くことができるようにするため	変 更 旧「勇気をもって行う」 ↓ 新「自信をもって行う」
	(2) 正直，誠実	明朗さを簡潔に示すため	変 更 旧「正直に明るい心で元気よく生活する」 ↓ 新「正直に明るい心で生活する」
	(3) 節度，節制	自分の安全に気を付けて生活ができるようにするため	変 更 旧「よく考えて行動し，節度のある生活をする」 ↓ 新「安全に気を付け，よく考えて行動し，節度のある生活をする」
	(4) 個性の伸長	主体性をもって個性を伸ばすことができるようにするため	変 更 旧「よい所を伸ばす」 ↓ 新「長所を伸ばす」
	(5) 希望と勇気，努力と強い意志	目標に向かって努力できるようにすることを重視するため	変 更 旧「自分でやろうと決めたことは，粘り強くやり遂げる」 ↓ 新「目標に向かって，強い意志をもち，粘り強くやり抜く」
B	(11) 相互理解，寛容	自分と異なる立場や考えなどを理解して，望ましい人間関係を構築できるようにすることを重視するため	新 設 「自分の考えや意見を相手に伝えるときに，相手のことを理解し，自分と異なる意見も大切にすること」

C	(12) 規則の尊重	主体性をもって きまりや規則を守 ることを重視する ため	変 更	旧「約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ」 ↓ 新「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守る」
	(13) 公正，公平，社会正義	差別や偏見をも つことなく，より 一層集団や社会と の関わりをもてる ようにするため	新 設	「誰に対しても分け隔てをせず，公正，公平な態度で接すること」
	(15) 家族愛，家庭生活の充実	主体的に人との 関わりを捉えるこ とができるように するため	変 更	旧「生活を支えている人々や高齢者」 ↓ 新「家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者」
	(16) よりよい学校生活， 集団生活の充実	自分と学校との 関わりについても 考えられるように するため	変 更	旧「楽しい学級をつくる」 ↓ 新「楽しい学級や学校をつくる」
	伝統と文化の尊重， (17) 国や郷土を愛する態度	郷土及び国との 関わりに関する内 容を統合するため	変 更	「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，国や郷土を愛する心をもつ」
	(18) 国際理解，国際親善	多様な文化を尊 重し，国際親善に 努めることを重視 するため	変 更	「他国の人々や文化に親しみ，関心をもつ」 ※明記
D	(19) 生命の尊さ	生命の尊さを自 分との関わりで理 解できるようにす るため	変 更	旧「生命の尊さを感じ取り」 ↓ 新「生命の尊さを知り」
	(20) 自然愛護	自然との関わり を明確にするため	変 更	旧「自然のすばらしさや不思議さに感動し」 ↓ 新「自然のすばらしさや不思議さを感じ取り」

第5学年及び第6学年の内容項目はどのように改訂されたのですか。

★ ポイント

学習指導要領における内容項目をAからDのまとまりで示し、第5学年及び第6学年では「よりよく生きる喜び」の内容項目が新設されています。

これまでの改訂内容との比較を改訂の理由及び文言の新設・変更(旧→新)・統合で示します。

第5学年及び第6学年

視点	内容項目	改訂の理由	文言の変更・追加等
A	(1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任	自分の意思に基づいて判断できるようにするため	変 更 旧「自律的で責任のある行動をする」 ↓ 新「自律的に判断し, 責任のある行動をする」
	(3) 節度, 節制	自分の安全に気を付け, 生活習慣の意義や大切さなどについての理解を深められるようにするため	変 更 旧「生活習慣の大切さを知り」 ↓ 新「安全に気を付けることや, 生活習慣の大切さについて理解し」
	(4) 個性の伸長	個性の伸長に際して, 長所及び短所を明確にするため	変 更 旧「悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす」 ↓ 新「短所を改め長所を伸ばす」
	(5) 希望と勇気, 努力と強い意志	目標に向かって不屈の精神をもって努力することができるようにするため	変 更 旧「より高い目標を立て, 希望と勇気をもってくじけないで努力する」 ↓ 新「より高い目標を立て, 希望と勇気を持ち, 困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く」
	(6) 真理の探究	探究心を養うことを重視するため	変 更 旧「進んで新しいものを求め, 工夫して生活をよりよくする」 ↓ 新「物事を探究しようとする心をもつ」
B	(8) 感謝	現在の生活への感謝の念を深められるようにするために	変 更 旧「人々の支え合い」 ↓ 新「家族や過去からの多くの人々の支え合い」
	(10) 友情, 信頼	人間関係を構築できるようにするため	変 更 旧「男女仲よく協力し助け合う」 ↓ 新「異性についても理解しながら, 人間関係を築いていく」
	(11) 相互理解, 寛容	自らの考えをもって他の立場や考えを受け入れることを重視するため	新 設 「自分の考えや意見を相手に伝えるときに」 変 更 旧「自分と異なる意見や立場を大切にする」 ↓ 新「自分と異なる意見や立場を尊重する」

C	(12) 規則の尊重	主体性をもってきまりや規則を守ることをより一層重視するため	変更	旧「公德心をもって法やきまりを守り」 ↓ 新「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り」
	(13) 公正，公平，社会正義	偏見や差別を許さない態度を重視するため	変更	旧「差別をすることや偏見をもつことなく公平，公正にし」 ↓ 新「差別をすることや偏見をもつことなく，公正，公平な態度で接し」
	(14) 勤労，公共の精神	奉仕の精神の涵養を重視するため	変更	旧「働くことの意義を理解し，社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする」 ↓ 新「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに，その意義を理解し，公共のために役に立つことをする」
	(16) よりよい学校生活，集団生活の充実	学級生活の充実及び学校の様々な集団における役割遂行を重視するため	統合 変更	「身近な集団に進んで参加し，自分の役割を自覚し，協力して主体的に責任を果たす」ことは，集団や社会との関わりに関するいずれの内容にも関係するため，この趣旨を学校との関わりに関する内容に含めた。 旧「みんなで協力し合いよりよい校風をつくる」 ↓ 新「みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに，様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努める」
	(17) 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度	日本人としての帰属意識及び社会的な広がりを見直しを再考したため	変更	旧「郷土や我が国」「郷土や国」 ↓ 新「我が国や郷土」「国や郷土」
	(18) 国際理解，国際親善	多様な文化を尊重し，国際親善に努めることを重視するため	変更	旧「外国の人々や文化を大切にする心を持ち，日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める」 ↓ 新「他国の人々や文化について理解し，日本人としての自覚をもって国際親善に努める」
D	(19) 生命の尊さ	生命のかけがえのなさについての理解を深められるようにするため	変更	旧「生命がかけがえのないものであることを知り，自他の生命を尊重する」 ↓ 新「生命が多くの人々のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し，生命を尊重すること」
	(21) 感動，畏敬の念	畏敬の念の対象を広く捉えられるようにするため	変更	旧「美しいもの」 ↓ 新「美しいものや気高いもの」
	(22) よりよく生きる喜び	人間としてのよさを見いだしていくことができるようにするため	新設	「よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し，人間として生きる喜びを感じる」

「特別の教科 道徳」の年間指導計画の作成に当たってどのようなことに配慮すればよいですか。

★ ポイント

指導計画を作成するに当たって内容の取扱いについての配慮事項は、以下の四つのポイントに整理されています。

- 1 指導計画に関すること
- 2 指導の配慮事項
- 3 教材の開発や活用等に関すること
- 4 学習状況等の把握に関すること

1 指導計画に関すること

※は、学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」から抜粋

全体計画及び指導内容の取扱いに関する事項は第1章総則に移行し、道徳科の年間指導計画に関わる事項のみ記載しています。なお、指導計画の創意工夫を生かす例示を加えています。

各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとする。その際、児童や学校の実態に応じ、2学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。

2 指導の配慮事項

ア 指導体制の充実に関すること

基本的な指導体制について学習指導要領解説には以下のように示しています。

校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。

イ 教育活動全体で行う道徳教育との関連に関すること

これまで目標に示していた各教科等との密接な関連及び補充、深化、統合に関する事項を、指導の配慮事項として具体的に示しています。

道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができるよう、計画的・発展的な指導を行うこと。特に、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、児童や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。

ウ 児童の主体的な学習に関すること

児童が自ら道徳性を養うことへの配慮事項を、自ら振り返ること、道徳性を養うことの意義について自ら考え、理解することなどを加えて具体的に示しています。

児童が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、児童自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。

エ 言語活動の充実に関すること

児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むための言語活動の充実を具体的に示しています。

児童が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり、書いたりするなどの言語活動を充実すること。

オ 多様な指導方法に関すること

道徳科の特質を生かした指導を行う際の指導方法の工夫例を、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等として示しています。

児童の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。

カ 現代的な課題の扱いに関すること

指導の配慮事項として、情報モラルに加えて社会の持続可能な発展などの現代的な課題の扱いを例示し、取り上げる際の配慮事項を示しています。

児童の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること。また、児童の発達の段階や特性等を考慮し、例えば社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、それらの解決に寄与しようとする意欲や態度を育てるよう努めること。なお、多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること。

キ 家庭や地域社会との連携に関すること

道徳科の授業に関わって、その実施や教材開発や活用などに各分野の専門家等の積極的な参加や協力を加えて示しています。

道徳科の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに家庭や地域の人々各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

3 教材の開発や活用等に関すること

「特別の教科 道徳」の教科書の著作・編集や検定の実施を念頭に、学習指導要領の記述を具体的に示すなどの配慮が求められたため、教材の開発、活用に関しては、多様な教材の開発や活用について生命の尊厳、情報化への対応等の現代的な課題などを加え具体的に例示し、教材の具備すべき要件を示しています。

- 児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。
特に、生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。
- 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであること。
 - ア 児童の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。
 - イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。
 - ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

4 学習状況等の把握に関すること

道徳科の指導に際して、学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握することを示しています。

児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

具体的には、以下の点に基づいて適切に評価を行います。

- 数値による評価ではなく、記述式であること。
- 児童がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと。
- 優劣を決めるような評価はなじまないことに留意する必要があること。
- 内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと。
- 発達障害等の児童についての配慮すべき観点等を学校や教員間で共有すること。

第5学年年間指導計画の例

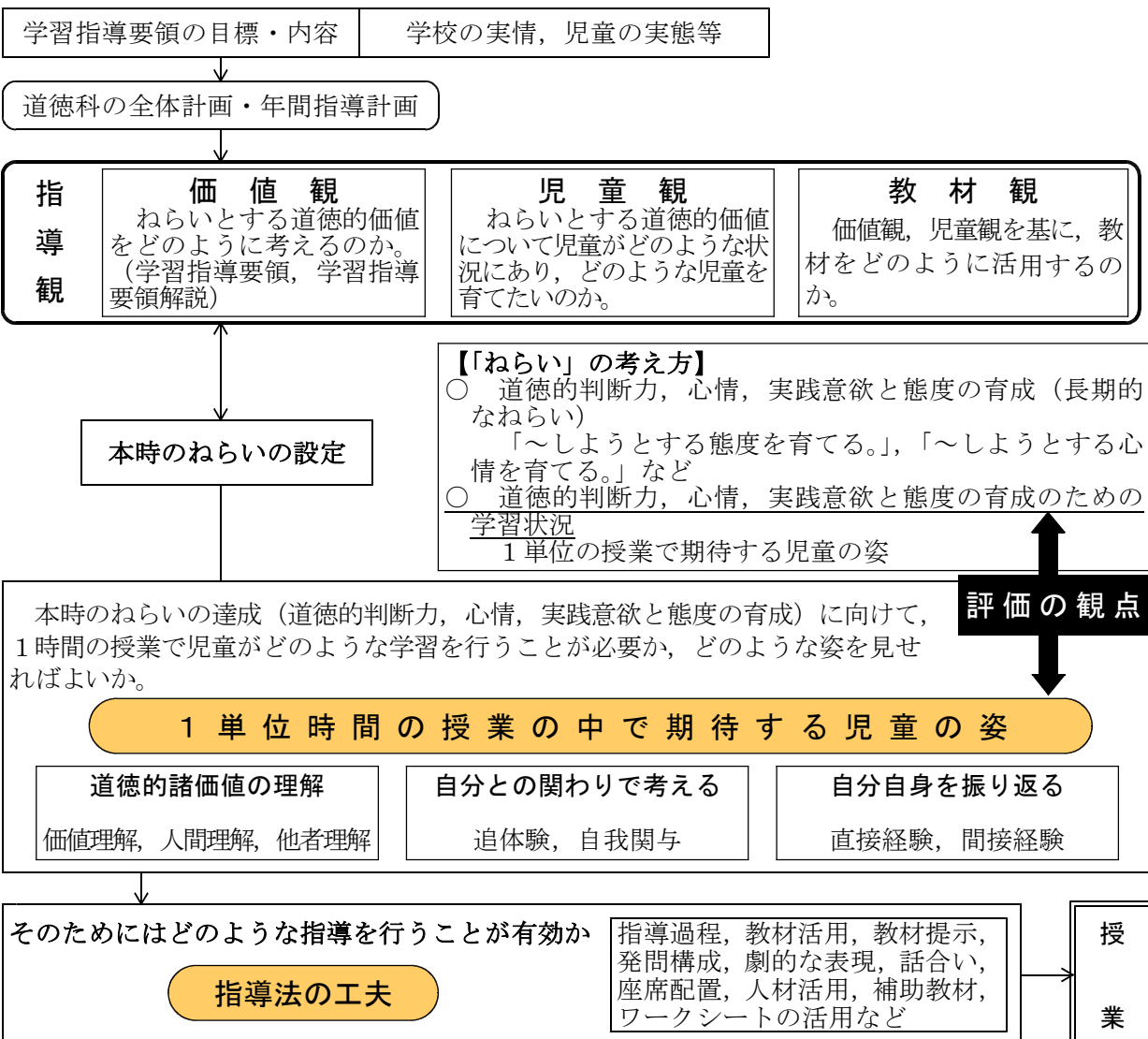
第5学年年間指導計画						
回・月・週	学年の基本方針		1 身近な集団の中で自分の役割と責任を主体的に果たせるようにする。 2 教材中の特定場面や状況を自分との関わりで考え、自己の生き方についての自覚を深めさせる。			
	回	1	月	4	週	2
主題名	主題名	節度ある生活		内容項目	A-(3)節度、節制	
教材名・出典	教材名	流行おくれ		出典	文部省 読み物資料とその利用 『主として自分自身に関すること』	
主題構成の理由	主題構成の理由	生活を振り返り、自ら節度を守り、節制に心掛けることについて、主人公を通して考える。				
	ねらい	生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り、節制に心掛けようとする態度を育てる。				
学習指導過程及び指導の方法 (指導過程の概略：学習活動、主な発問)	学習指導過程及び指導の方法	1 児童の流行に関することについて話し合う。 2 教材『流行おくれ』を読んで話し合う。 (1) みどりと社会科見学の服装について話をするまゆみは、どんな気持ちだったか。 (2) 母にたしなめられたまゆみは、どんなことを考えたか。 (3) わたるに「ゲームの本を返して」と言われたまゆみは、どんな気持ちだったか。 (4) シーンとした自分の部屋を見回すまゆみは、どんなことを思っていたか。 3 「節度、節制」について、心掛けていたり、実行していたりする事柄の話合いを通して、自分の生活を振り返る。 4 日常生活の中で、節度をもって努力していることについて教師の話聞く。				
	他の教育活動との関連	学習規律の指導（常時）、学級活動(2) 基本的な生活習慣の形成				

内容項目

ねらい

「考え、議論する道徳」に転換するためには、どのように授業を構想すればいいのですか。

道徳科の授業は、下図の手順で構想しましょう。



- ◆ 道徳科の特質を生かすために
- 道徳的諸価値の理解を深める学習
 道徳的諸価値の理解は、「ねらいとする道徳的価値が大切であること（価値理解）」、「大切ではあるが道徳的価値に根ざした行為は容易ではないこと（人間理解）」、「道徳的価値に関わる感じ方・考え方は人によって様々であること（他者理解）」です。これらを重視した指導を行うことが必要です。
 - 児童が自分との関わりで考える学習
 児童の主體的な学習とは、児童がねらいとする道徳的価値に関わる諸事象などについて、自分との関わりを実感しながら学ぶことです。授業構想に当たっては、児童が諸問題を自分事として捉え、自分の体験などに基づいて考えられるようにすることが重要です。
 - ねらいとする道徳的価値を視点にして自分自身を振り返る学習
 自分自身を振り返る学習とは、児童一人一人がねらいとする道徳的価値に関わる行為、考え方、感じ方はどうだったかを、具体的に振り返ることです。指導者は、確固たる指導観に基づき、児童にどのような視点で振り返りをさせるのかを明確にする必要があります。

1 明確な指導観（価値観、児童観、教材観）をもちましょう。

★ ポイント

道徳的価値に関わる授業者の考え方（価値観）に基づいた指導の結果としての児童の姿（児童観）を明確にし、教材を通して子供に考えさせるべきこと（教材観）を確かにもった上で、授業を構想することが大切です。

◆ 価値観

授業者が授業を構想する際には、授業のねらいとそこで取り扱う道徳的価値に対して明確な考えをもつことが求められます。授業者の価値観は、道徳科の授業を構想する際にはとても重要なもので、児童観の基盤となります。授業者が児童の実態を的確に捉え、授業に生かすためにも、授業者が明確な価値観をもつことは欠かせません。

その根拠となるものが、学習指導要領に示されている内容項目です。道徳科の内容項目は、児童が人間としてよりよく生きていく上で必要な道徳的価値を、認識能力や社会認識の広がり、発達の段階などを考慮して、学年段階ごとに精選して重点的に示したものです。授業を行う際には、『学習指導要領解説』に示されている内容項目の具体を参照するとともに、常に全体の構成や発展性（【資料1】）を考慮して指導していくことが大切です。

【資料1】内容項目の構成と発展性

19 生命の尊さ

[第1学年及び第2学年]
生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
[第3学年及び第4学年]
生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
[第5学年及び第6学年]
生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

(中学校)
[生命の尊さ]
生命の尊重について、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

◆ 児童観

同じ教材を使っても、児童の実態が異なれば授業の視点や内容が違ってきます。道徳科の授業構想のためには、ねらいとする道徳的価値を視点とした児童の実態を明らかにすることが重要です。ねらいとする道徳的価値に関わって児童がどのような実態なのか、授業者の価値観を基に児童がどのような状態なのかを明確にすることが、効果的な学習指導過程の構想にもつながります。

児童の実態を明確にするためには、本時に至るまでの道徳的価値に関わって行われた指導の機会や程度についても明らかにする必要があります。このような授業者の指導の振り返りにより、不十分な点を補ったり（補充）、指導をより一層深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させ、統合させたり（統合）する指導を展開することになります。

◆ 教材観

様々な背景をもち、多様な感じ方や考え方の児童に、自ら考え、他者と議論する集団思考を促すためには、共通の教材を基に学習を展開し、主体的・協働的に学び合えるようにする必要があります。

そのためには、授業者の明確な価値観や児童観に基づいて、授業者が児童に考えさせたい道徳的価値に関わる内容がどの場面に、どのように含まれているかを検討し、道徳的価値の理解の道筋を明らかにしておくことが重要です。

2 ねらいを明確に設定しましょう。

★ ポイント

特定の道徳的価値について、道徳性のどの様相を養うのかを明確にしたねらいを設定することが大切です。

道徳科の授業のねらいは、1単位時間の授業において、その時間に授業者が指導を意図する一定の道徳的価値と、養うべき道徳性の様相を示したものです。

つまり、特定の道徳的価値について、道徳的な判断力を養うのか、道徳的な心情を養うのか、道徳的な実践意欲・態度を養うのかを明確にすることが大切で、これによって授業展開が方向付けられることになります。

(例) 小学校第3学年「親切、思いやり」

相手のことを思いやり、進んで親切にしようとする心情を育てる。

ねらいとする道徳的価値(内容項目)

道徳性の様相

小学校第5学年「善悪の判断、自律、自由と責任」

自由を大切にし、自立的で責任のある行動をしようとする判断力を高める。

ねらいとする道徳的価値(内容項目)

道徳性の様相

3 ねらいを達成するために効果的な指導方法を工夫しましょう。

★ ポイント

指導者一人一人が、授業のねらいの達成に向けて、児童の発達やその特性、指導内容などに応じた指導方法を選択し、工夫することが大切です。

「道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議」(文部科学省)では、「考え、議論する道徳への転換」に向けて求められる質の高い多様な指導方法の例示として、①「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」、②「問題解決的な学習」、③「道徳的行為に関する体験的な学習」を指導方法の例を挙げています。それぞれの特長は、【資料2】のとおりです。

【資料2】道徳科の質の高い指導方法の特長

① 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習

教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりにおいて多面的・多角的に考えることを通し、道徳的諸価値の理解を深めることについて効果的な指導方法であり、登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めることができる。

② 問題解決的な学習

児童一人一人が生きて上であらう様々な道徳的価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。問題場面について児童自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

③ 道徳的行為に関する体験的な学習

役割演技などの体験的な学習を通して、実際の問題場面を実感を伴って理解することを通して、様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面を実際に体験してみること、また、それに対して自分ならどう行動をとるかという問題解決のための役割演技を通して、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

これらの三つの指導方法を生かした展開例については、次頁(【資料3】、【資料4】、【資料5】)にあるとおりですが、それぞれが独立した指導の「型」を示しているわけではありません。それぞれに様々な展開が考えられ、また、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことが求められます。

【資料3】読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習（例）

ねらい	教材の登場人物の心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、道徳的価値の自覚を深める。
導入	1 道徳的価値に関する内容の提示 教師の話や発問を通して、本時に扱う道徳的価値へ方向付ける。
展 開 前 段 後 段	2 登場人物への自我関与 教材を読んで、登場人物の判断や心情を類推することを通して、道徳的価値を自分との関わりで考える。 【教師の主な発問例】 ・ どうして主人公は、〇〇という行動を取ることができたのだろう。（又はできなかったのだろう。） ・ 主人公はどういう思いをもって〇〇という判断をしたのだろう。 ・ 自分だったら主人公のように考え、行動することができるだろうか。 3 振り返り 本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりする。
終 末	4 まとめ ・ 教師による説話を聞く。 ・ 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。 ・ 道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 ・ 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

【資料 4】問題解決的な学習（例）

ねらい	問題解決的な学習を通して、道徳的な問題を多面的・多角的に考え、児童一人一人が生きる上で出会う様々な問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	1 問題の発見や道徳的価値の想起など - 教材や日常生活から道徳的な問題を見付ける。 - 自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いをもつ（原理・根拠・適用への問い）。
展開	2 問題の探究（道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など） - 道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいのかなどについて多面的・多角的に考え、議論を深める。 - グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。 - 道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。 【教師の主な発問例】 - ここでは、何が問題になっていますか。 - 何と何で迷っていますか。 - なぜ、■■■（道徳的諸価値）は大切なのでしょう。 - どうすれば■■■（道徳的諸価値）が実現できるのでしょうか。 - 同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。 - なぜ、自分はそうに行動するのでしょうか。 - よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。
	3 探究のまとめ（解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見） - 問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいのかなどについて話し合う等を通じて、考えを深める。 - 問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。 - 考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。 - 問題の探究を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。
終末	4 まとめ - 教師による説話を聞く。 - 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。 - 道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 - 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

【資料 5】道徳的行為に関する体験的な学習（例）

ねらい	役割演技などの疑似体験的な表現活動を通して、道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養う。
導入	1 道徳的価値を実現する行為に関する問題場面の提示など - 教材の中に含まれる道徳的諸価値に関わる葛藤場面を把握する。 - 日常生活で、大切だと分かっているにもかかわらず実現できない道徳的行為を想起し、問題意識をもつ。
展開	2 道徳的な問題場面の把握や考察など - 道徳的行為を実践するには勇気がいることなど、道徳的価値を実践に移すためにどんな心構えや態度が必要かを考える。 - 価値が実現できない状況が含まれた教材で、何が問題になっているかを考える。 3 問題場面の役割演技や道徳的行為に関する体験的な活動の実施など - ペアやグループをつくり、実際の問題場面を役割演技で再現し、登場人物の葛藤などを理解する。 - 実際に問題場面を設定し、道徳的行為を体験し、その行為をすることの難しさなどを理解する。
	4 道徳的価値の意味の考察など - 役割演技や道徳的行為を体験したり、それらの様子を見たりしたことを基に、多面的・多角的な視点から問題場面や取り得る行動について考え、道徳的価値の意味や実現するために大切なことを考える。 - 同様の新たな場면을提示して、取り得る行動を再現し、道徳的価値や実現するために大切なことを体験することを通して、実生活における問題の解決に見通しをもつ。
終末	5 まとめ - 教師による説話を聞く。 - 本時を振り返り、本時で学習したことを今後どのように生かすことができるかを考える。 - 道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。 - 感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

「特別の教科 道徳」の評価は、どのようなことに留意して進めればよいのですか。

★ ポイント

道徳科の評価は、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ます個人内評価として記述式で行います。

1 基本的な考え方

評価は、児童の側から見れば、自らの成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の側から見れば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるものです。

そこで、道徳科の特質を踏まえると、評価に当たっては、次の6点が求められます。

- ・ 数値による評価ではなく、記述式とすること
- ・ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- ・ 他の児童との比較による評価ではなく、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて、認め、励ます個人内評価として行うこと

＊

＊ 個人内評価… 児童のよい点を褒めたり、更なる改善が望まれる点を指摘するなど、児童の発達の段階に応じ励ましていく評価

- ・ 学習活動において、児童がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- ・ 道徳科の学習活動における児童の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ること
- ・ 道徳科の評価は、調査書には記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することがないようにすること

2 道徳科における評価

- 評価に当たっては、道徳科の学習活動に着目し、年間や学期といった一定の時間的なまとまりの中で、児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握する必要があります。
- 評価に当たっては、一人一人の児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、主に次の2点に着目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述します。

- ・ 一面的な見方から多面的な見方へと発展しているか。
(例) 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている 等
- ・ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。
(例) 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている 等

「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて学校で取り組むことは何ですか。

★ ポイント

小学校は、平成30年度に「特別の教科 道徳」が全面実施されます。現行の道徳教育と比べて変わらないところと、変わるところを明確に捉えながら、自校のこれまでの道徳教育の内容や体制を見直すことが大切です。その視点は、次の7点です。

1 学校の道徳教育の重点目標を明確にしましょう。

どのような児童を育てたいのか、児童にどのような心を育てたいのか、具体的な目標を設定します。

* Q 1, Q 2を参照

【漠然とした目標】

人間尊重の精神を生かし、道徳的心情と道徳的判断力を高め、道徳性を養う。

【具体的な目標】

人間尊重の精神を生かし、思いやりをもつて、規範を尊重しようとする子供を育成する。

2 学校の重点内容項目を明確にしましょう。

道徳の重点目標の達成に向けて、どのような内容を重点的に指導するのか（重点内容項目）を明らかにします。

* Q 2を参照

3 重点内容項目に関わる具体的な指導の機会、時期を明確にしましょう。

重点内容項目を具体的に、いつ、どのような機会に指導するかを明らかにします。

* Q 4を参照

4 学校の道徳教育の全体計画及び別葉を作成しましょう。

別葉については、重点内容項目の指導ができているか点検しながら、適宜、修正・加筆していきます。

* Q 3, Q 4, Q 5を参照

5 1単位時間の概要を示した指導計画を作成し、学年部の方針等を共通の基盤とした授業を展開しましょう。

指導の時期、主題名、ねらい、教材名（出典）、主題構成の理由、学習指導過程と指導の方法（学習活動、主な発問等）、他の教育活動等における道徳教育との関連などの内容を一覧表にして表します。

* Q 12を参照

6 道徳科の特質に応じた授業を積み上げていきましょう。

道徳的諸価値の理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、「これからどうしていくか」などの自己の生き方についての考えを深める学習を積み上げ、道徳科の授業の質的転換を図ります。

* Q 13を参照

7 明確な指導観をもって授業を行い、児童の学習状況を把握しましょう。

児童に何を考えさせるのか、教師がしっかりと理解して指導し、授業で児童がどのような学びをしたか、個人内評価でしっかりと見取ります。

* Q 13, Q 14を参照